開催日 令和2年7月22日(水) 会議時間 開会 PM 6:00 閉会 PM 7:30

役場 第2会議室 会計年度任用職員 四條 楓弥

出席者 委員:佐藤昇平委員(座長)、高田明夫委員(副座長)

伊藤大介委員、川原与文委員、向田薫委員

町:企画環境課長 山本、広報広聴係 大野・四條、集落支援員 梅田滋

会議日程

(1)座長選出

- (2) 120 年史企画案の趣旨
- (3) 目次案、年表チャートとリード文のキーワード、文献資料一覧、作業工程表
- (4)装丁概要案

会議内容

- ■町長あいさつ
- ■自己紹介
- ■座長選出 佐藤昇平委員 (座長)、高田明夫 (副座長)
- ■議事(佐藤座長による進行)

【120年史企画案の趣旨】

梅田より 120 年史企画趣旨の説明

(前回作成した 100 年史以降の) この 20 年が二セコ町にどのような意味をもったのか、まちづくり基本条例の施行からおよそ 20 年なので、この間のまちづくりの動きを町民目線で記す。この 20 年の特徴である「まちづくり基本条例」「国際リゾート観光開発」「環境とエネルギー」に着目していく。

(意見)

- ・120 年史は読んで楽しく、資料として使っても役に立つような町史にしたい。お金をかけて作るものなので、活字ばかりではなく見どころのあるものを作ってほしい。
- ・この20年で活躍した人の顔や話が載るような町史が良い。
- ・自分は80周年のときに作成した町勢要覧に載ったことがある。これは何回も読み返し、 家族とも楽しく見ている。このような内容のものを目指してほしい。

【目次案、年表チャートやキーワード、文献資料一覧、作業工程表、装丁概要案】 目次案、表チャートとリード文のキーワード、文献資料一覧、作業工程表…梅田より説明。 装丁概要案…広報広聴係長 大野より説明。

(意見)

・多くの町史を見てきたが、使えるのは事実や数字が淡々と書かれたもの。人の話を中心

に掲載すると「その人」というフィルターを通した情報が伝わってしまう。「今」手に取って見る人には面白いと思うが、100 年後に歴史文献として手に取った人には情景が浮かびづらい。趣旨を聞くと町史ではなく記念誌のほうがふさわしいのでは。

- ・(有料販売にするか無料配布にするかについて) 有料販売するとなると、今のニセコ町の 注目度を鑑みると印刷数 1000 冊ではプロデュース (販売促進方法) 次第では足りなくなる のではないか。
- ・インターネット上に PDF で公開すれば、全ページカラーで作成することができ、必要な人だけ手にするので無駄がなくなる。ネット印刷も簡単にできるので、紙媒体で読みたい人にもリーチできる。
- ・今回作成するものは、記録として残していく「町史」とするのか、わかりやすく面白い ものとする「記念誌」とするのか、方向性はどちらなのか。

(梅田) 現段階では「史実としての町史」と「読みやすい記念誌」のハイブリッドを目指している。

(山本課長)100年史の編さんに携わったが、最初は事実のみを書き並べていたため面白いものではなかった。町民の声を盛り込んだことにより面白みが出た。100年史の際は販売するものと無料配布するものの2種類作り、販売するものを「町史」、町民に無料配布するものを「記念誌」寄りにした。今回は1種類のみの作成となるが、基本は「史実」を大切にしたい。

- ・人というフィルターを通すと、話す人によって印象が変わってくる。史実に基づいたもののほうが町史として実用的ではある。
- ・対象をだれにするのか。町民なら記念誌のほうがおもしろいので、読んでもらえる。史 実はきちんと残すべきだが、HPでアクセスできるなら印刷して配布しなくてもいい。
- ・80 周年のときに作成した町勢要覧は記念誌のようなものだった。こちらのほうが読みやすく、面白いので何度も読み返す。このような文体を望む。
- ・出来事フローチャートや目次案を見ると「ウインタースポーツ」「温泉」「芸術・アート」 の記載がないが、スキー客や温泉施設の変遷などは載るのか。

(梅田) それらについても掲載していきたい。ただ、参考文献が町発行のものが多く、民間の情報が手に入りづらい。それらの情報をどのように収集するかが課題。

・120年史のひとまずの方向性として、「町史」と「記念誌」のハイブリッドで進めていく。

【次回】

•11~12 月頃開催予定。